

世銀、国別ESGデータプラットフォーム開設

◆世界263の国や地域のESGデータを無料公開

2019年10月、世界銀行は投資家向けに、国単位のESG（持続的成長に必要なE：環境、S：社会、G：統治の3つの観点）データを無料で閲覧できるソブリンESGデータポータルをサイト上に開設した。従来より、投資家からの国別ESG情報に関する要望は強く、特に発展途上国については投資経験やデータ不足で投資判断が困難なのが問題であった。今回、世界銀行が発展途上国を含む263の国や地域のESG情報を一元的に管理、提供する仕組みを作ったことにより、信頼性の高い情報の入手や国別の比較も容易になり、持続可能な投資の増加が期待されている。

このESGデータポータルは、国内情勢や政策の実施状況を反映した67指標からなる。例えばG（統治）の経済環境を示す指標には、「規制環境からみたビジネスのしやすさ（1～190位までランク付け）」や「個人インターネット使用率（人口比）」などがある。またこの67指標はSDGs 17ゴールを意識して設計されている。

【公開されたデータのフレームワーク】

E（環境）項目	27指標	S（社会）項目	22指標	G（統治）項目	18指標
排出と汚染	5	教育と技能	3	人権	2
天然資源量と管理	6	雇用	3	政府の有効性	2
エネルギーの使用と安全保障	7	人口動態	3	安定性と法の支配	4
気候変動リスクと強靭性	6	貧困と不平等	4	経済環境	3
食糧安全保障	3	健康と栄養	5	ジェンダー	4
		サービスへのアクセス	4	イノベーション	3

（出典：世界銀行ホームページよりARC作成）

（ソブリンESGデータポータル→ <http://datatopics.worldbank.org/esg/>）

◆ESG投資が当たり前の時代に

GSIA（世界持続可能投資連合）が18年3月に発表した全世界のESG投資額は、前回発表の16年から16%増の約3,400兆円で、全投資の約33%を占める。日本のESG投資割合は、前回の3%から18%に大きく増加した。現在、世界の大手金融機関は、ESG投資を推進するPRI（責任投資原則）に署名しており、20年にはESG投資の実施状況に関する情報開示を義務付けられている。そのため、各機関は、投資先企業にESGに関するエンゲージメントを要求する活動を強化している。

国も企業もESG課題対応なしには投資されない時代になってきた。【石井由紀】